

◇ 漁業生産の担い手確保育成事業（本島・宮古・八重山）◇

平成 8 年度 少年水産教室 開催
（石垣市内小中学校）

八重山支庁産業振興課 糸 数 正

1. 教室名
ナミハタ放流
2. 実施対象
石垣市内小中学生（主に八島小学校）
3. 目的
八重山地域における地元住民の資源管理、水産増養殖への理解及び認識を高めるため、義務教育課程にある児童、生徒を対象に、放流に関する基礎的知識、技術についての学習を行なうとともに、漁業後継者の育成確保に資する。
4. 開催日時
平成 8 年 11 月 3 日（日）
集合 14 時 00 分
学習会 14 時 10 分
稚魚放流 15 時 00 分
5. 開催場所
集合 石垣市市民会館（産業祭会場）
学習会 石垣市中間育成施設会議室
稚魚放流 石垣市登野城出島沖側岸壁
6. 参加者
児童生徒 39 名（別紙参照）
父兄 25 名
7. 関係機関
主催 八重山支庁
協力 水産試験場八重山支場、石垣市
八重山漁業協同組合、漁業者
8. 準備
(1) 種苗
種苗は水試八重山支場で 5 月に生産後、漁業者が石垣市中間育成施設で養成し 8～10cm にしたものを、今回の放流用に支庁が 3 千尾購入。
(2) 受付、輸送
参加者の確保のため、八島小学校の教頭に呼びかけをお願いしたが、受付段階で特に特定校に限定することはしなかった。
児童生徒の安全のため参加者は父兄同伴とし、産業祭（11 月 2～3 日）会場で受付し同所を集合場所とした。
集合場所、学習会場、放流会場間の児童生徒の移動には、支庁と石垣市のマイクロバスを確保し、種苗の放流会場への移動には支場のトラックをお願いした。
(3) 学習会
放流前の参加者へのレクチャーのため、「ナミハタについて」のペーパー（支場準備：別紙）、「八重山の農林水産業」（支庁発行）、「遊漁者の手引き」（漁政課発行）等の資料の外、資源管理型漁業に関するポスター等を準備した。
学習会場は施設見学を兼ね中間育成施設とし、講師は支場の金城主任研究員をお願いした。
また、飲み物は児童生徒向けにヨーグルトを準備した。
(4) 会場設営
受付その他総括は支庁が担当し、学習会場の椅子等は漁協、放流会場の岸壁から海までのシェーター（稚魚の滑り台）は石垣市をお願いした。

9. 経過概要

(1) 種苗

石垣市には複数の試験研究機関が誘致されているほか、市により中間育成施設が整備されており、今回の放流種苗の確保は漁業者の中間育成技術の習得にもつながっている。

途中、ポンプの異常により支場に預けるなどのトラブルがあったものの、順調に育成が行われた。今後、種苗生産技術の伸展により、多様な魚種の放流が期待される。

(2) 受付

石垣では、一般のそれも児童生徒による水産物の放流は初めての催しであり、対象者の設定、参加者の募集方法等について検討を要したが、産業祭の一環として会場内に受付を設置したところ、意外と希望者が多く、関係者をホッとさせた。

集合も時間前から集まる家族があり、時間どおりの出発となったが、市民会館から中間育成施設までの2台のマイクロバスの車中は、さながら遠足のような雰囲気にも包まれていた。

(3) 学習会

学習会は当初1時間弱の予定でいたが、講師の金城主任研究員の説明が学校での授業より楽しかったのだと思われるが、子供たちの質問が相次ぎ、予定より長く、約2時間を費やした。

中間育成施設の見学はあいにくの雨のため残念ではあったが短時間で切り上げることとなった。しかしながら、親子での見学は児童生徒、特に低学年にとっては大変楽しいひとときとなったようである。

(4) 稚魚放流

施設見学の間、輸送班はナミハタ稚魚輸送トラックで放流会場へ先回りし、児童生徒を乗せた2台のマイクロバスの到着を待つよう待機。

バケツに入った稚魚を渡された子供たちは大変感動したようで、一人で何度も放流する子供もいた。

10. 所感

今回の放流は初めての試みにもかかわらず、結果は大成功であったと思われる。

帰りのバスでも子供たちは大喜び。保護者からも感謝の意を表してもらった。

子供たちには「魚の赤ちゃん」を海に放すという感動もさることながら、事前の学習会での「お勉強」も楽しい思い出になったようである。

少年教室の目的である児童生徒への水産への啓蒙は図られたものと考えられるし、参加者には漁業者の子供たちもおおり、後継者への感銘も大きかったと思われる。

今回の成功の裏にあるものを整理すると、
①漁業者、漁協、市役所、水試の協力が得られた。

②開催が日曜（産業祭）で保護者が同伴できた。

③講師のおかげで学習会が大盛況であった。

④放流会場の設定が安全面等で良好であった。などがあげられるが、関係者の皆さんありがとうございました。

また、初めてのことゆえまずい面も多々あったことも記しておきたい。

平成9年の春には小浜島周辺でスジアラの放流を計画しており、現在中間育成施設で養成中であるが、その際には、是非小浜島の児童生徒を対象に少年教室を実施していただきたいものである。

最後に、子供達のためにシューターを提供していただいた建設業者さんに感謝するとともに、初めてマイクロバスを運転した筆者自身を褒めてあげたい。

ナミハタ（サッコウミーバイ）放流受付簿

平成 8 年 11 月 2 日

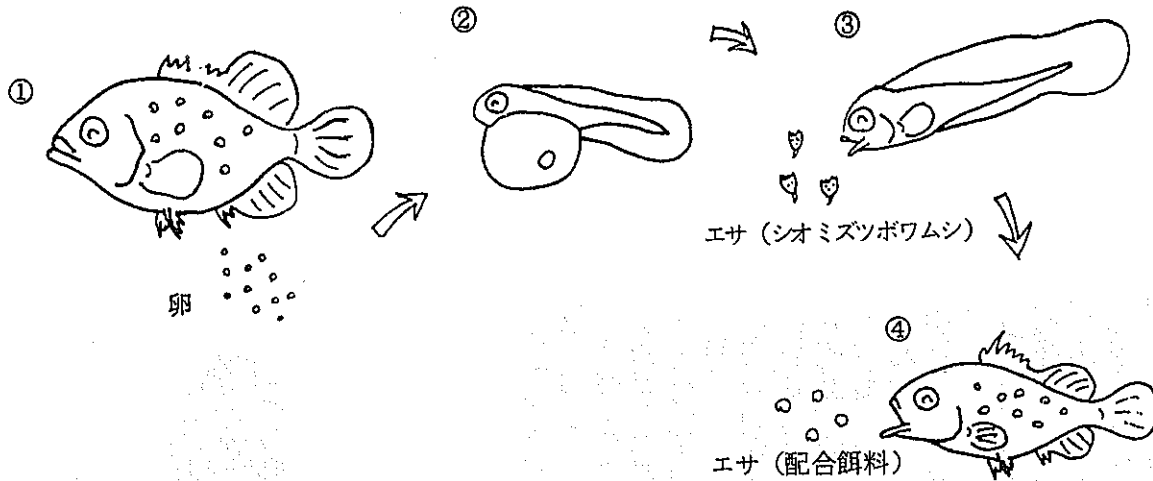
No.	参加者名	学年	保護者名	備考
1	平安名 優	3 年	平安名 まさゆき	
2	太田 ゆうや	"	"	
3	崎山 もりひろ	"	"	
4	平安名 たかゆき	1 年	"	
5	崎山 もりあき	2 年	"	
6	玉城 わたる	5 年	玉城 葵	
7	城間 けんじ	"	城間 みち子	
8	真玉橋 のりお	"	"	
9	平良 さつき	3 年	平良 洋代子	
10	西表 やすみつ	1 年	西表 光男	
11	西表 なるみ	2 年	"	
12	斉藤 孝則	6 年	斉藤 光則	
13	宮良 ゆうた	"	宮良 としみつ	
14	今井 すぐる	2 年	今井 としろう	
15	今井 たくみ	幼稚園	"	
16	久旧 友貴	1 年	久旧 友次	
17	宮城 けい	3 年	宮城 弘子	
18	砂川 あけみ	6 年	砂川 笑英	
19	前盛 まりこ	"	前盛 芳久	
20	新城 岳	幼稚園	新城 美菜子	
21	与儀 もりたか	保育所	与儀 守康	
22	吉浜 あやか	1 年	吉浜 きよこ	
23	平良 匡	6 年	平良 よしかつ	
24	米盛 英樹	5 年	-	
25	辻野 えみり	3 年	辻野 ちえみ	
26	渡久山 裕太	4 年	平安名 まさゆき	
27	大浜 光	"	"	
28	崎山 七海	"	崎山 克馬	
29	新盛 まなび	"	"	
30	町田 愛	2 年	町田 ひでみ	
31	町田 ゆい	幼稚園	"	
32	栗国 あきひろ	4 年	-	
33	嶺井 しげよし	-	嶺井 茂信	
34	田場 由太郎	5 年	田場 由光	
35	慶田城 ゆう	-	-	
36	辻野 やすまさ	保育所	辻野 ちえみ	
37	友利 ゆい	3 年	友利、玉代勢 合華	
38	宮良 尚汰	2 歳	宮良 伸作	
39	本村 勇気	1 年	本村 貞盛	

ナミハタについて

ナミハタはサンゴ礁の海で小魚を餌として生活している、八重山地方によくいるとてもおいしい魚です。大きいものは全長40cm近くになります。みなさんに放流してもらったナミハタは、今年の5月16日と17日に水産試験場で生まれた

魚です。生まれたときは全長が1.6mmしかありませんでしたが、今では全長が約10cm、体重が約20gになっています。

次に、どのようにしてナミハタを育ててきたか、下の図で説明します。



① 親魚の飼育、産卵 ② ふ化直後の稚魚 ③、④ 稚魚の飼育

この様にしてできた魚は、海に放流したり、人間が大きくなるまで育てたり（養殖）します。2年後には、約20cmまで育ったナミハタを漁師

さんがとって、みなさんのお家の食卓に並ぶようになるでしょう。

八重山毎日新聞

THE YAEYAMA MAINICHI SHINBUN

11月4日 月曜日
1996年(平成8年)

●発行所●
株式会社 八重山毎日新聞
〒907 沖縄県石垣市石垣258番地
月額購読料1,650円 郵政番号8-11090
☎09808(2)2121 FAX09808(3)0675

大きくなれ

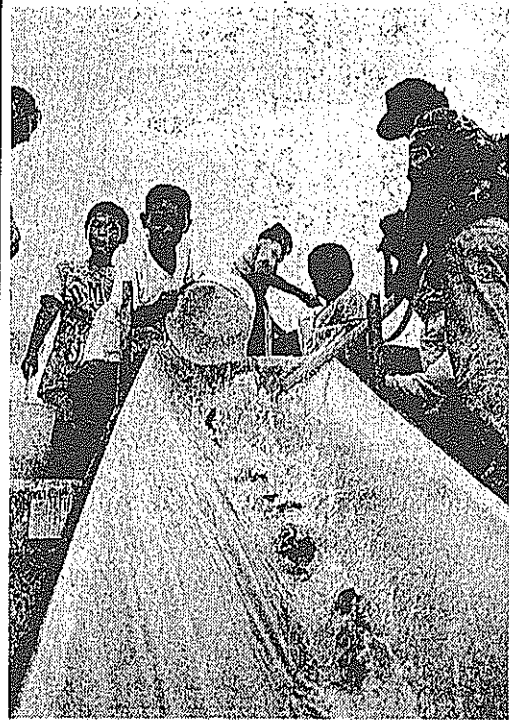
家族連れ
40人が参加

ミーバイ稚魚3千尾を放流

八島町地先

近年はずっかの姿を見かけなくなったというサッコミーバイ(ハミハタ)の稚魚が三日、子どもたちの手から八島町地先の海に放たれた。

産業まつりの関連イベントとして行われたもので、家族連れ約40人が参加。子どもたちが「大きくなれ」と願いを込め、三千尾の稚魚を防波堤から放流した。



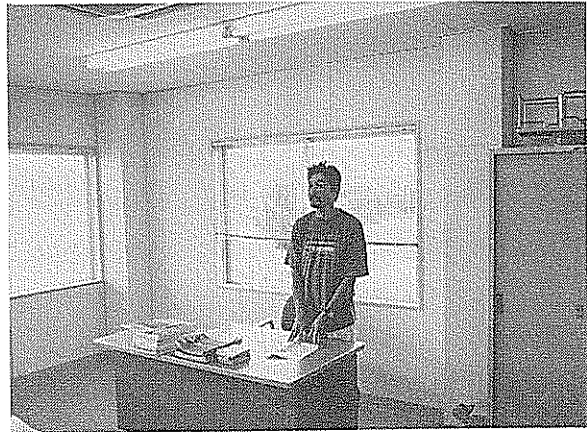
が今では体長10センチ、体重20グラム。二年後には約20センチまで成長するといふ。

子どもたちは八島町にある石垣市種苗供給施設で魚について学んだあと、小さく見守っていた。

「大きくなれよ!」。ミーバイの稚魚を放流する子どもたち



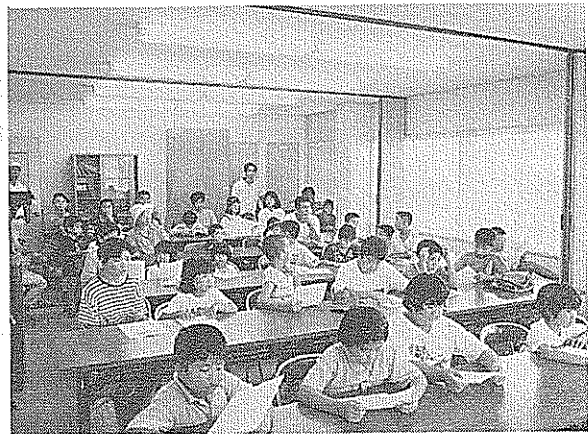
受付



学習会講師 金城主任研究員



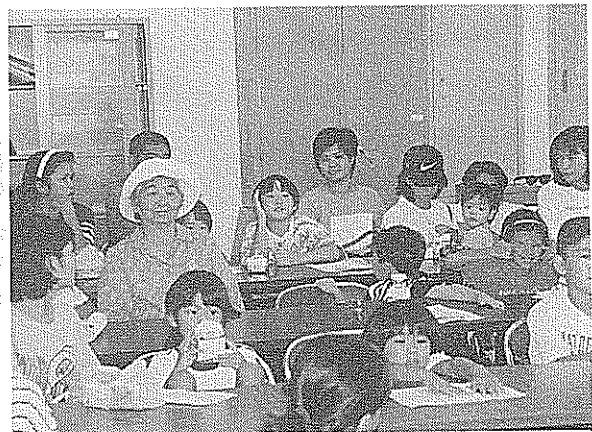
マイクロバス（市役所）運転手 糸数



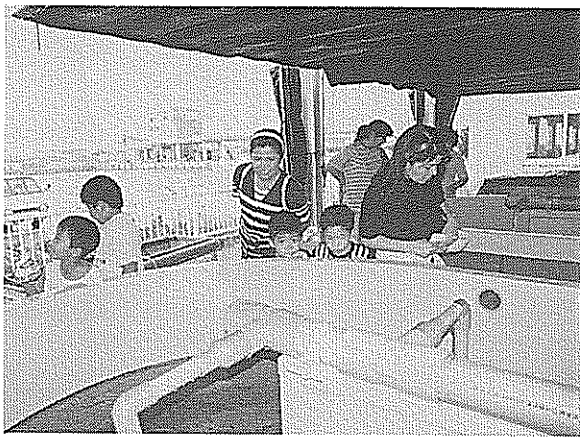
学習会



マイクロバス（支庁）



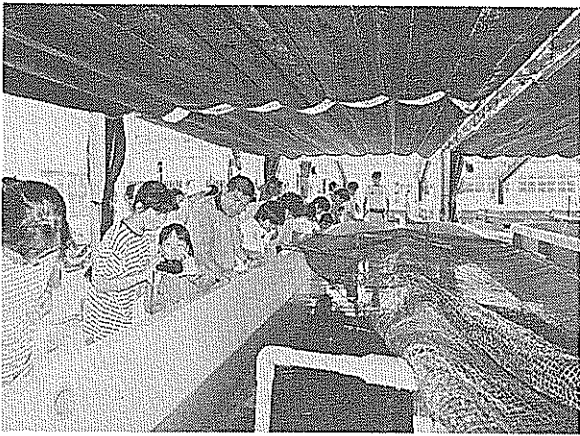
質問が続く



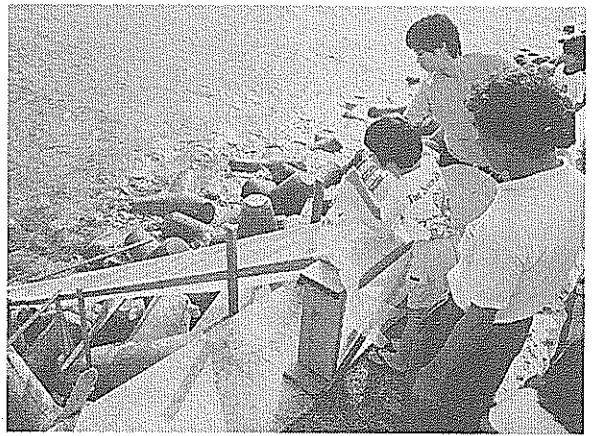
中間育成施設の見学



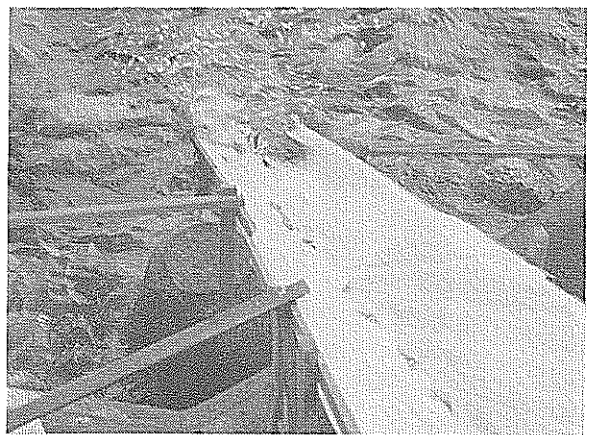
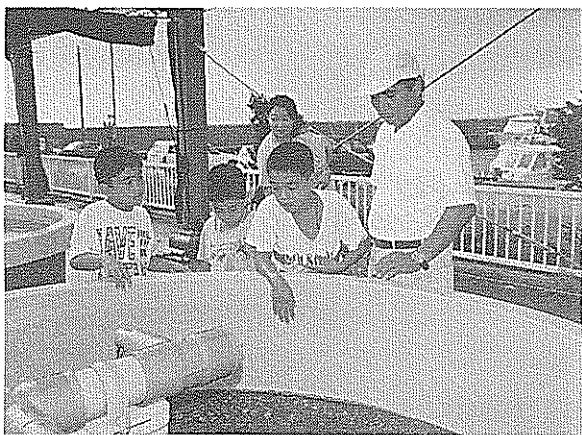
放流会場



「魚の赤ちゃん」に目を見はる



よいしょっと



海に帰っていく稚魚